

	基調説明
	県内における 「災害時住民支え合いマップ」の 策定状況について
	長野県健康福祉部地域福祉課 地域支援係

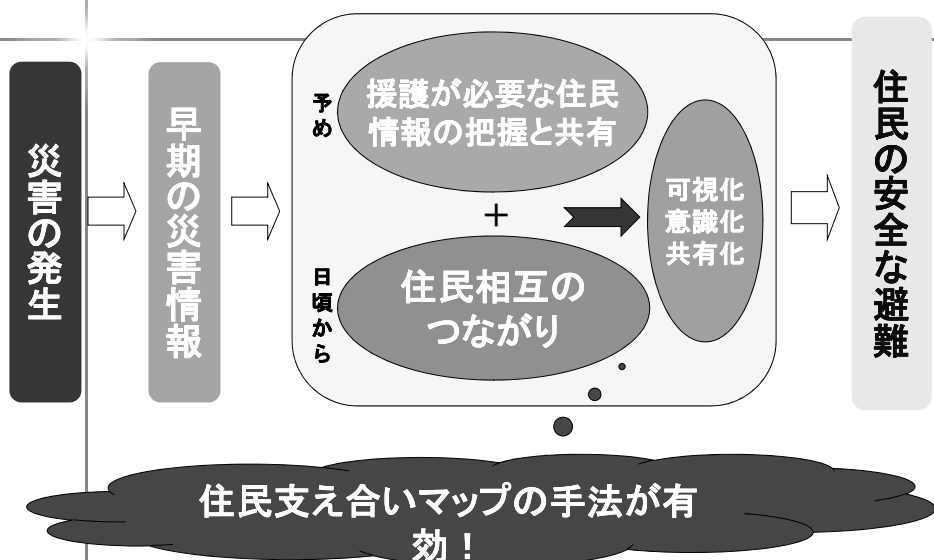
	1 「災害時住民支え合いマップ」の 推進の経過について

H16年7月の豪雨災害等から見えた課題！

- 防災関係部局と福祉関係部局の連携が不十分で、避難勧告の伝達体制が十分に整備されていない。
- 要援護者の情報把握や共有が進んでいない。
- 要援護者の避難支援計画が具体化していない。
- 現実の災害においては、地域住民による助け合いの力こそが大きな効果をあげる。

阪神淡路大震災では、無事に避難できた人の75%が近所の人のおかげによるものだった！

安全な避難に必要なものは・・・！



「災害時住民支え合いマップ」のイメージ



これまでの取組状況(1)

■ 平成17年度

- 「災害時における高齢者・障害者等避難支援計画」担当者会議
 - 市町村(防災・福祉担当)市町村社協等
- 「災害時住民支え合いマップ」策定研修会
 - 県下10会場で開催
- マップを活用した避難模擬訓練
- 「災害時住民支え合いシンポジウム」

これまでの取組状況(2)

- 平成18年度
 - 「住民支え合い総合支援事業」(国補事業)により、11市町村へ補助
- 平成19年度
 - 「災害時住民支え合いマップ作成のための参考事例集」の作成・配布
 - 「地域の支え合い・まちかどシンポジウム」の開催

これまでの取組状況(3)

- 平成20～24年度
 - 県社協への補助事業として、引き続きマップ作り及びその作成過程を通じた日常の支え合い活動の取組みを推進
 - ・ 住民支え合い活動の体制支援
 - ・ 地域福祉ワーカー養成研修
 - ・ マップ未作成市町村に対する支援

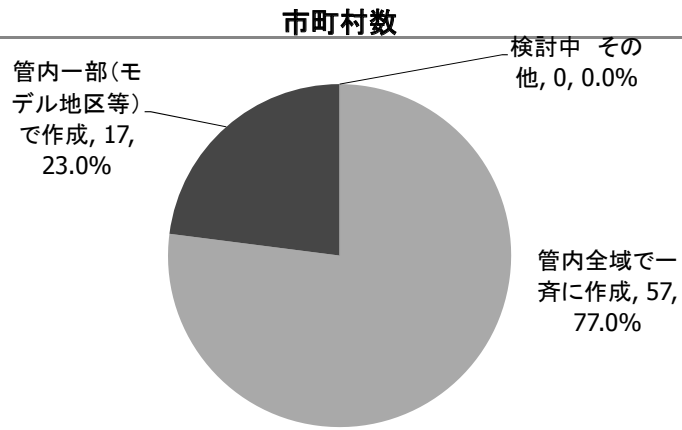
2 県内の市町村の策定状況 について

市町村の取組状況

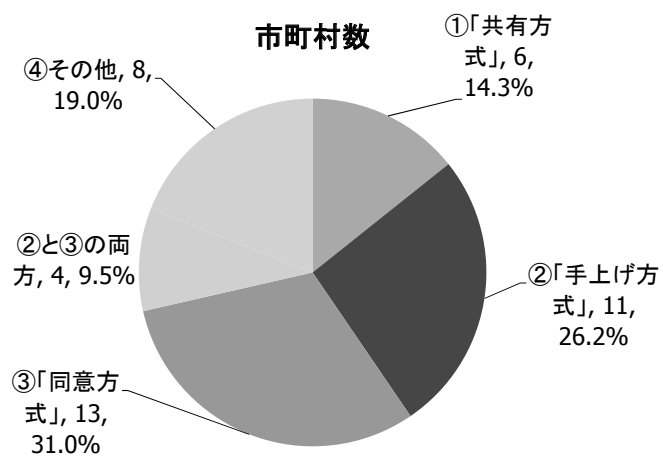
区分	H20	H21	H22	H23	H24
マップづくりを進める市町村	76	76	71	73	74
マップができた市町村	36	48	52	54	58
地区数	693	1,096	1,321	1,517	1,767
計画はあるが未着手の市町村	10	8	4	5	6
マップ不要としている市町村	5	4	6	4	3

※ 各年とも3月31日現在

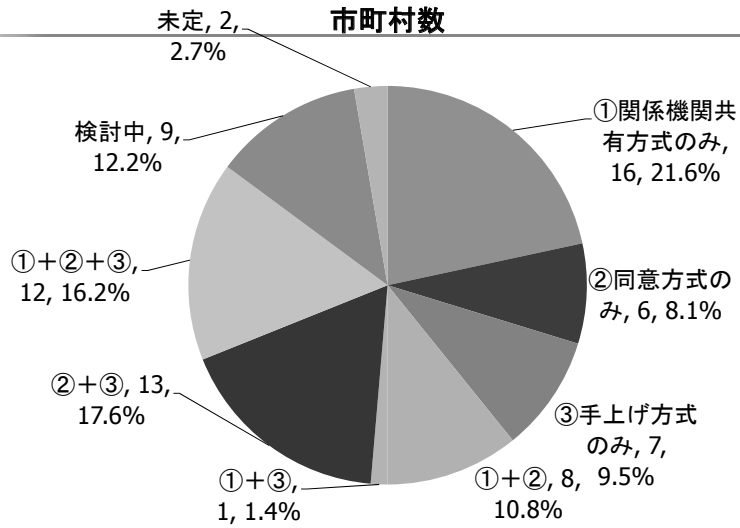
マップづくりの進め方



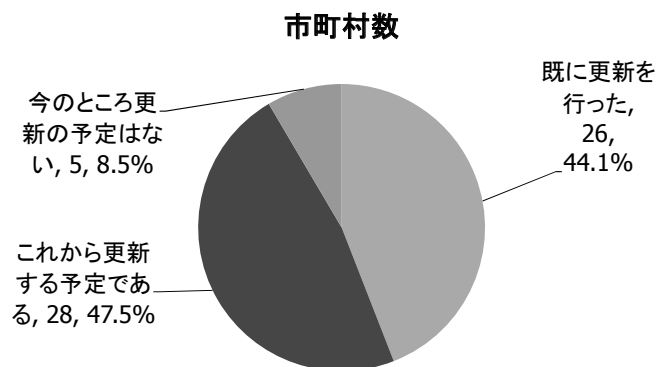
マップに記入する災害時要援護者の範囲



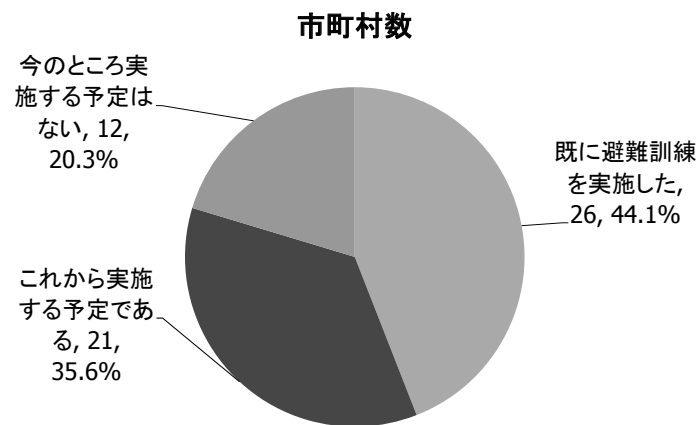
情報の収集・共有方法



マップの更新状況



マップを利用した避難訓練の実施状況



災害時住民支え合いマップの 実際と支え合い活動への展開

**NPO法人 東京いのちのポータルサイト
中橋徹也**

平成25年3月13日

今日の話

- **災害時住民支え合いマップは本当に災害時に役に立つものになっているのか？**
- **作ったマップは日常の支え合いにつかわれているか？**

マップは本当に災害時に 役に立つものになったのか？

役に立つとは、

- マップを見る必要はない。
- 見なくても動ける

訓練ができて

互いに普段から“つながり”がある

ここまで、なかなかいっていない。

マップは 日常の支えあいにつながったか？

- 災害マップの作成等に課題が残ったため、
日常の支え合いにはなかなか結び付いていない。
- マップを日常の支え合いにつかっていくには、
 - ①もっと踏み込む。
 - ②もっとアイデアが必要。

目次

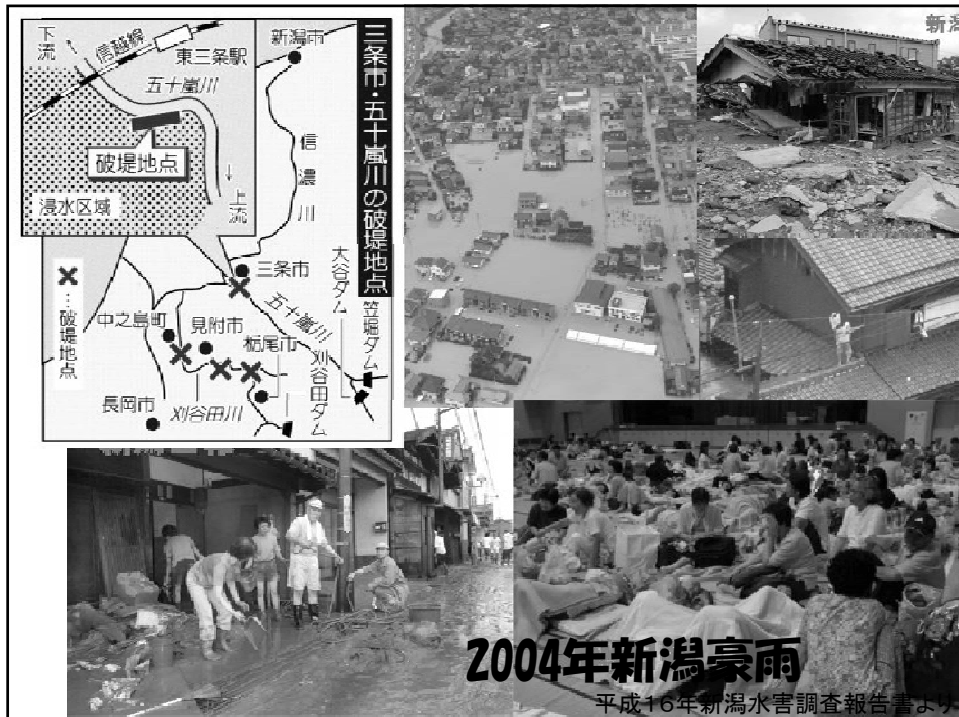
- **なぜ災害時住民支え合いマップづくり
だったのか？**
- **災害時住民支え合いマップの現状**
- **災害時住民支え合いマップの本当の意
味**
- **災害時住民支え合いマップを活かす**
- **日常の支え合いへの展開にあたって**

**なぜ災害時住民支え合いマップ
だったのか？**

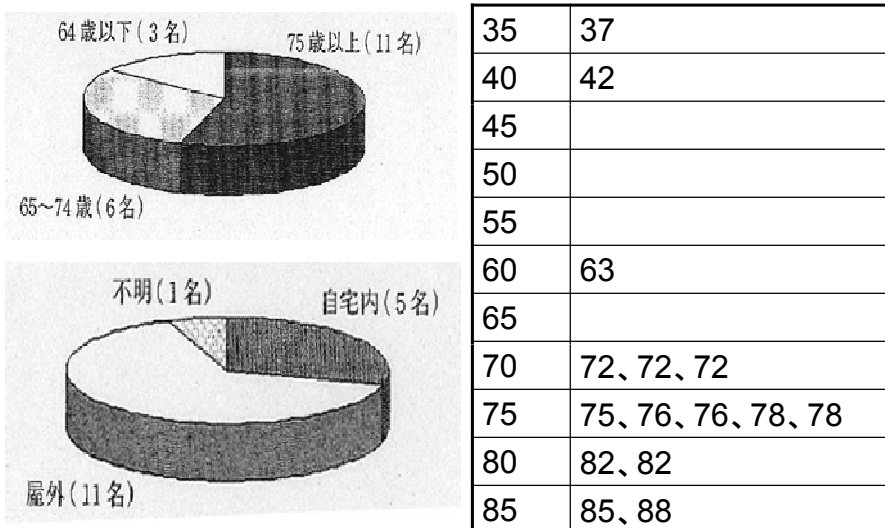
きっかけ

平成16年新潟福井水害

平成16年7月13日
人的被害 死者16名 負傷者4名
土砂災害2名 溺死14名
建物被害
全壊70 半壊5354 一部損壊94
床上浸水2149 床下浸水6208(棟)



2004年新潟水害の死因と年齢



平成16年新潟水害調査報告書より抜粋(左)、編集(右)

表 1.4 2004 年新潟水害による犠牲者の発生状況

避難勧告の発令状況	犠牲者像	被災状況
破堤氾濫 10 分前	男 76 歳・健常	自宅流失, 屋内で遺体発見
	男 78 歳・健常	2 階建て住宅流失, 屋内で遺体発見
	女 75 歳・健常	自宅流失, 屋外で遺体発見
浸水開始後避難	女 42 歳・健常	避難中, 流されて行方不明
	女 78 歳・杖歩行	孫と避難中, 流されて行方不明
	男 37 歳・健常	トラックで仕事で水没し, 行方不明
	男 63 歳・健常	車で移動中, 浸水箇所での停車, 溺死
破堤後, 2 時間経って浸水が始まり, その時避難勧告が発令	男 72 歳・健常	急激な浸水で避難できず倉庫内で溺死
	女 84 歳・要介護独居	室内で溺死(床上 110 センチ浸水)
	男 77 歳・寝たきり	室内で溺死(床上 120 センチ浸水)
	女 87 歳・杖歩行独居	室内で溺死(床上 130 センチ浸水)
	女 76 歳・要介護独居	2 階に上がれず 1 階で溺死

平成16年新潟水害調査報告書より

内閣府が動く

H16(10月)

- ・ 集中豪雨時等における情報伝達及び高齢者等の避難支援に関する検討会

H17

- ・ 災害時要援護者の避難対策に関する検討会
- ・ 集中豪雨等における情報伝達及び高齢者等の避難支援に関する推進会議

H18

- ・ 災害時要援護者の避難支援における福祉と防災の連携に関する検討会
- ・ 災害時の要援護者避難支援対策及び情報伝達に関する推進会議

その結果、

- ・ 災害時要援護者の避難支援ガイドライン(平成17年3月公表)
- ・ 避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(平成17年3月公表)
- ・ 災害時要援護者の避難支援ガイドライン(改訂版)(平成18年3月公表)
- ・ 災害時要援護者対策の進め方について(報告書)(平成19年4月公表)
- ・ H18年4月 長野県避難支援計画を策定

長野県の取り組み(その1) 福祉的アプローチによる

- 平成12年度から、木原孝久氏(住民流総合福祉研究所)の「住民支え合いマップ」(地域住民に支え合いの地域福祉文化を育む手段)、長野県内の市町村でも、モデル的な取り組みが行われた。
- 17年度からこの手法をモデルとした「災害時住民支え合いマップ」づくりを推進。
- 普段の支え合いの実態を地域住民、特に世話人らから聞き取り、その支え合いを軸とした災害時対応のしくみづくりを考える。

長野県の取り組み(その2) 防災的アプローチ

- 平成19年度に、災害時住民支え合いマップファシリテーター養成講座を開催。
- DIG(DISASTER IMAGINATION GAME)の手法を用いて、対応を検討する手法。
- 災害時のいざというときの対応(助け合い)を前提に、備えとしての普段の支え合いを推進していこうとする

自治会vs介護団体等へのヒアリングで明らかになった市民の仕事の状況

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 過去に幾度となく床下浸水を経験しており「いつも程度と考えていた」・ 避難勧告が出されたことを知らない・ 急速な増水で自宅の2階に逃げるのが精一杯であった・ 自治会内で犠牲となった高齢者に対しては独居または高齢者夫婦で在宅生活が可能であるのではという思いがどこかにあった。 | <ul style="list-style-type: none">・ いつもの水害とは違って浸水がひどくなってきたことを認識していた・ 高齢者に電話をかけ、側に家族または助けになる知り合いがいるかどうか確認した・ 避難勧告がだされたことを認識していた。・ 連絡が取れない場合は、直接安否確認をおこない、避難所に誘導した・ 避難が不可能な場合は一緒にいた |
|--|---|

災害時の支え合い・キーワード

- ・ 支え合い・・・双方向
- ・ 個別計画
 - ・・・普段の生活、絞り込み
- ・ 多様な主体

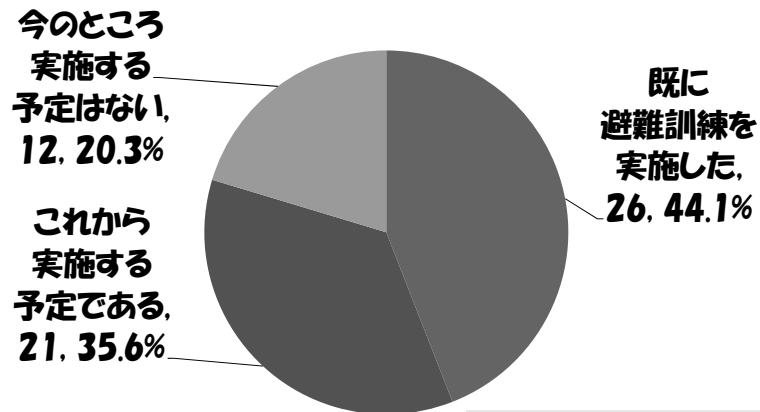
災害時住民支え合いマップの 現状

マップの現状

- 一定の数は達成されているが、その方法、中身はさまざま
- 一定の役にたつものではあるが、実用性は疑問
- 多くの場合、その時の役員、民生委員、消防らと作ったため、広がりに欠ける。
- 個人情報、更新、保管に気をとられすぎ
- ひとりひとりではあるが、個別計画にはなっていない

マップを利用した避難訓練の実施状況

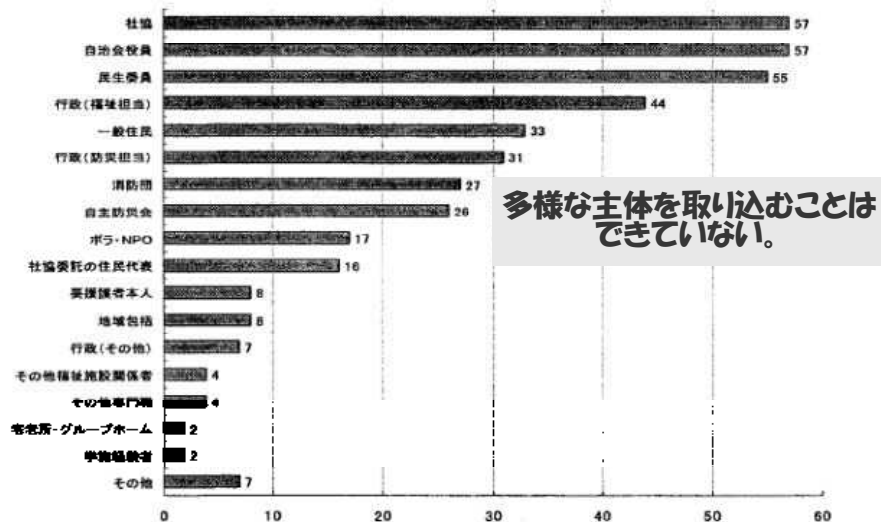
市町村数



長野県資料から抜粋

実際に要援護者が参加して、移動した訓練がある？

誰とつかったのか？



多様な主体を取り込むことはできていない。

**なぜ、マップが役に立つ？が疑問なのか
マップづくりの現場から…その1**

- 自分のところには災害が来ない。来ても大したことがない。
- そもそも、ある程度支え合いはできているから大丈夫！

これは支える側支えられる側の両方にある

**なぜ、マップが役に立つ？が疑問なのか
県内のマップづくりの現場から…その2**

- ほとんどが支える側から作られている
- 日常生活を知らずしておこなわれている
- 地域の限られた範囲・資源で作られている
- 高齢者はカバーできているが、障害者は疑問

作り方の課題

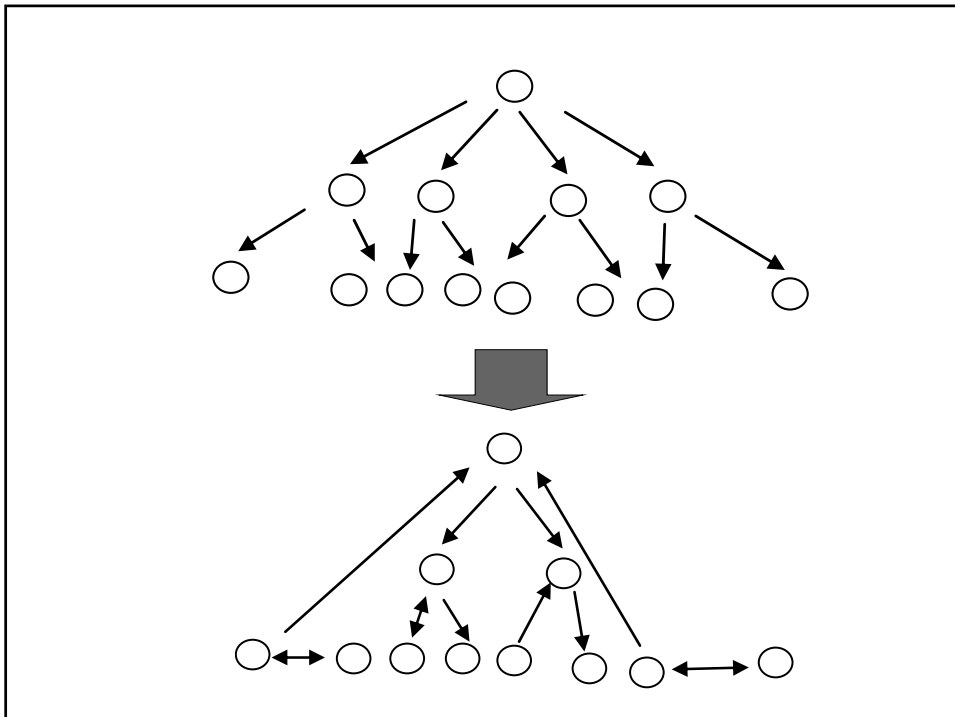
災害時住民支え合いマップの 本当の意味

マップづくり

- 0)地域の現状の把握(災害、人、もの)
- 1)アンケート調査・行政からの情報提供
- 2)要援護者と援護するひとをマップに記す
- 3)避難場所を確認する【※1】
- 4)マップを作ったの話し合い【※2】
- 5)訪問調査【※3】
- 6)避難訓練
- 7)更新

災害時住民支え合いマップの意味

- 災害という特殊性
「災害時」でおきた（る）ことは
普段（日常）の潜在的な問題の顕在化
- マップのもつ意味
日常時における地域の状況把握
（ひと、災害、もの等）
- マルチアプローチ
災害時は日常とは異なり混乱している
ので、多様な手段が必要



つまり、災害時住民支え合いマップは

- ・ アセスメント(現状把握)
…地域、ひと、もの全て**
- ・ 課題の抽出・議論の場**

災害時住民支え合いマップを

活かす

活かすとは？

- 災害時に役立つように、フラッシュアップする
- 日常の支え合いに展開する

災害時に役にたつには？

- 要援護者が参加して、動く防災訓練を行う
- 一人ひとりの生活、状況を見直し(聞き出し)
それぞれにあった計画に変える

支えられる側も参加した
多様な主体を取り込んだ

災害時支え合いのキーワード

- **支え合い……双方向**
- **個別計画……日常**
- **多様な主体**

災害時住民支え合いマップの欠点

- **災害に特化しすぎていること**
 普段の生活に踏み込めていない
 課題が単一。
- **役員でつくられているため、義務的な面も強い**

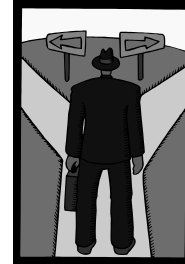
日常の支え合いには？

？ ？

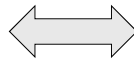
日常の支え合いへの展開にあたって

あなたは...地域の住民です。

あなたは、本当に支え
合いが必要だと思いま
すか？



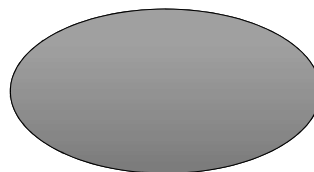
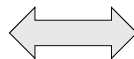
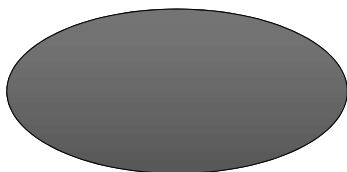
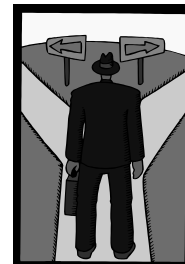
YES
(必要と思う)



NO
(いらないと思う)

あなたは...地域の住民です。

あなたは、どんな支え
合いが必要だと思いま
すか？



今支え合い、つながり作りの為に 私が取り組んでいること

○地域の支え合いづくりのために、被災地の再生まちづくりの手法を導入し、試みている。

○地域にかかわる資源を集めたワークショップ

○一般の市民の人と一緒に課題解決のための勉強会・ワークショップ

被災地の再生まちづくりの手法とは

○住民一人ひとりに話を聞く。

○住民の方と数回にわたるワークショップ

(地域の良さ、課題発見、解決策模索)

○他地域との交流

これらの過程を踏まえて、自分たちで地域をつくりあげていく。

ふれあいオープン喫茶(神戸市)



NPO法人プラスアーツ 永田氏講演から

ふれあいオープン喫茶(神戸市の事例)

ふれあいオープン喫茶

日時：2012年3月25日(日)
 時間：13:00～16:00 《雨天決行》
 会場：電が台4丁目集会所
 お問い合わせ：あんしんずこがのーらひだまり 電話 795-1940

参加自由
 いくらでも参加
 いくらでも参加
 いくらでも参加
 いくらでも参加

■ふれあいオープン喫茶の楽しみ方

<p>お茶を淹れながら お話を聞きましょう</p>	<p>お茶を淹れながら お話を聞きましょう</p>	<p>お茶を淹れながら お話を聞きましょう</p>	<p>お茶を淹れながら お話を聞きましょう</p>
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------

神戸市須磨区竜が丘小学校HPより

従来より各地で行われていた
 ふれあい喫茶を
 担い手も参加者もより
 オープンな形に行うことで
 見守り

NPO法人プラスアーツ 永田氏講演から抜粋

見守りマガジンomusubi



右表紙からは

～シニア世代のための～

- 毎日、岡本7千山歩き
- 地域で活躍、クラフトおやし
- 東灘「見守り」応援マップ

左表紙からは

～子育て世代のための～

- 今日も行きたくなる公園
- みんなでつくる地域イベント
- 東灘「見守り」応援マップ

神戸市HPより

ご清聴

ありがとうございました。

